

## 徳島県総合計画審議会「『未知への挑戦』推進部会」会議録

1. 日 時 令和3年12月3日（金）午前10時から正午まで

2. 場 所 徳島県万代庁舎10階大会議室

3. 出席者

（1）委員（12名中9名出席）

金貞均部会長，青木正繁副部会長，植本修子委員，近藤明子委員，  
高畑拓弥委員，近森由記子委員，藤岡梨沙委員，フェネリー・マーク委員  
真鍋浩章委員

（2）県

企業局長（政策創造部長事務取扱），各部局政策調査幹 ほか

4. 議 題

1 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の改善見直しについて

2 その他

<配布資料>

資料1 対話集会「新未来セッションNEO・2021」の開催結果概要

資料2 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」令和4年度に向けた「改善見直し」（案）について

（別紙） 「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」について

資料3 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」改善見直しシート  
（要改善評価抜粋）

資料4 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」改善見直しシート

参考 県政運営評価戦略会議「提言書」及び  
「別冊（判定結果及び評価結果一覧表・評価シート）」

5. 議事録

・議題に先立ち，事務局より資料により「対話集会『新未来セッションNEO・2021』の開催結果概要」について説明。

（金部会長）

はい。ありがとうございます。それでは，先ほどの説明について，何かご意見等あります。特にこの会を主宰した近藤委員，いかがでしょうか。

（近藤明子委員）

大変ありがとうございました。この日すごく天気が悪く大変な中，高校生のみなさん本当に熱心に色々議論をしていただけました。高校生は自分たちの全体のことだけを考えているのではなくて，本当に幅広い年代の方々の生活についてもしっかりと考えていただいて，本当に貴重な意見をたくさん出していただきました。加えて，この日飯泉知事は現地に来てくださる予定だったんですけれども，コロナの影響で急遽リモートでのご参加となって，高校生は知事に直接お目にかかれるのをすごく楽しみにしていたみたいなんですけ

れども、ちょっとそこは残念だったかなというふうには思います。でも、本当にリモートでご参加いただいた高校生も含めて、とても活発にご意見いただきまして、これは引き続き続けていただいて、しっかりと県政に役立てていけたらなというふうに思っております。以上でございます。

(金部会長)

はい、ありがとうございます。

(青木副部会長)

はい、青木でございます。先ほど近藤委員さんのほうがおっしゃっていただいたことプラスですね、やはりこの対話セッション NEO はですね、もう数年続けさせていただいておりますが、やはりポイントはですね、高校生や大学生の方に、徳島の魅力に気付きを促すこと、それが一番だというふうに考えてございます。それと同時に地域の魅力であったり、今回は定住の方々との意見交換、つまり、徳島はこんなにいいところだよ、といった魅力に対して、未来を持って欲しいなといった思いも、私は込められているというふうに考えてございます。是非とも継続してこの対話集会新未来セッション NEO が継続することを心から願っております。発言は以上でございます。

(金部会長)

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。何かお聞きしたいこと、ご意見とかございますでしょうか。はい、高畑委員お願いします。

(高畑委員)

はい、ありがとうございます。ちょっと今回は参加できずで残念だったんですけども、僕自身地元の海部高校の魅力化に携わってる中で高校生の、意志の強さを感じているし、彼らが本当の未来を担っていくという力強さを日々感じている中で、まさに近藤委員がおっしゃったように彼らは自分たちのことだけじゃなくてですね、本当に未来の次世代の子たちのことを思って色々な意見を述べてくれる本当に素晴らしい世代だなというふうに思っている中で、この定住志向っていうのは、我々からすると、おそらくこの中でいうと、ずっと徳島に住みたいって回答してくれた人たちがいい結果だなっていうふうに捉えがちなんですけれども、もう少し広い目線で見ると、その子も含めてですね、あとは県外に住みたいっていう子も含めて、なぜそういうような結論に至っているのかといった背景も含めて考えてみると、1つ我々の方で考えているのはやはり子ども、高校生たちの世界ってすごく狭いんですね。その中で情報の中で、こういう今の意見を出しているけれども、青木委員がおっしゃったように色々な人と接する中で気づくこと、定住している人の意見ももちろんだし、逆に外に出て行った人って何で出ていったのかとか、実際出ていった時にどういうふうな感覚を持ってるのかみたいなのところも含めて、多面的なご意見をとらえることで、高校生自身が、高校生の時代から色々な視点で将来を見えるということにも繋がるかなと思うので、この1つの結果に一喜一憂するというよりは、例えばこの13人、もしくはアンケートの中の、この170人とかっていうところの、ずっと住みたいっていう

人はもういいよね，じゃなくて全部含めてですね，県外に出たって子だけをなんとか引き止めようじゃなく，今，回答してくれた子たち全員に対してもっと広い世界を見せてあげるようなセッションに繋がっていくと，より広い未来につながっていくし，仮に外に出たとしても徳島にいるときにあの人たちが見せてくれたから自分はこういうようなチャレンジが出来てる，というような郷土愛にもつながる取組になるのかなと思うので，是非そういう選択肢も含めて検討を進めていただきたいかなと思います。よろしくお願ひします。

(金部会長)

はい，ありがとうございます。はい，どうぞ。

(事務局)

はい，高畑委員のおっしゃることは全く同感でございます，今回もこの新未来セッション NEO，移住してきた方もセッションに加わっていただきまして，神山町のキネトスコープ社の廣瀬さんであったり，実際，なぜ徳島に移住するようになったかというようなご意見もいただいた上で，高校生にもそういう選択肢というのがあるんだよということをお示ししたくて開催したもので，まさに全く同感でございます。今後継続するにあたっては，そういったところ，さらに工夫を重ねてですね，皆さん，高校生，若い世代の方々にご理解いただけるように取り組んで参りたいというふうに考えております。後，青木副部長や，近藤委員の意見の引き出し方もとてもうまかったので，若い同世代といいますか，しゃべりやすかったのかなというふうに思います。ありがとうございます。

(金部会長)

ありがとうございます。高校生らにとって自分たちの意見を外に発信する場が与えられるということ，これ自体が非常に貴重な機会ですし，本当に大事なチャンスだと思いますね。意見を発信するだけでなく，同じ年代の人たちと意見を交わすことで，そこで生まれた新たな気付きというものも非常に大きいと思いますし，これからも継続してやっていただきたいものです。それから欲を言うならば，高校生らの先輩にあたる人たちの活躍について紹介する，この人はこのような考えで，地元でこんな風に活躍しているんだということを紹介する機会があったりすると，もっと刺激になると思います。

他にいかがでしょうか。はい，フェネリーマーク委員お願いします。

(フェネリー委員)

すみません，フェネリーです。近藤委員と同じ仕事場なんですけど，普段から学生とやり取りしている中でですね，大学の中の取り組みの1つとして，「学生 GP」という取組みがあって，学生が自ら計画する活動の中で，今回の高校生の意見と一致してるところがたくさんあって。やはり徳島だったら自然と観光っていうのをつなぐことで，学生も自然の中，色々観光したいという意図があって，様々な学生団体が，例えば，インバウンドの方，また留学生と一緒に徳島の自然の中で遊べる計画をして，モデルツアーとか色々企画したりする活動もみられます。また，eスポーツとかアニメに加盟しているようなイベントな

どを企画したりしています。ただ、学生からは同じような意見で、やはり交通の便が不便だったのと、車がないといけないとか、情報の無さ、というのは意見として毎年聞いておりますので、是非このような行動計画の中にですね、そういう意見の形が見えるように、これから徳島に住みたい人のためにですね、交通の便がちょっとでも良くなるとか、情報をもっと上手に発信するというようなことが出来ればいいなというふうに思います。

また、徳島に住みたい学生、人は良いとしてもですね、いっぺん外に出て、戻りたいという高校生は、実際は外に出て、戻ってこないという子が多いのではないかなというふうに思いますので、実際外に出て帰ってきた学生の、卒業後、帰ってきて徳島で生活してる方とか、一度外に出て帰ってこなかった人の声も聞くような方法があれば是非、なんで戻って来なかったとか、戻っても就職する場所がないといった問題なのか、徳島に住みたくないのかというのが、どの視点で戻ってこないのかというですね、そういうデータを取る方法があれば是非取っていただきたいと思います。以上です。

(金部会長)

はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では本日欠席の平岡委員から文書で提言をいただいたということですので、事務局から報告をお願いします。

(事務局)

それでは、平岡委員からいただいております、提言内容をご説明いたします。「新未来セッション NEO の継続」と題して御提言をいただいております。提言内容といたしましては、高校生を始めとする若者が県政にコミットする機会として、また、彼らが実際に徳島で活躍する社会人と交流する機会としても、非常に有意義な取り組みとなっているので、この実践を積極的に他の自治体にも紹介するとともに、今後是非継続して頂きたい、という内容でございました。

この提言に対してコメントさせて頂きますと、先ほどからお答えさせていただいておりますとおり、この新未来セッション NEO でございますが、若者の県政への参画機会が創出されるということで、将来を担う本県の若者、徳島の今を知って徳島の未来について考えていただける絶好の機会というふうに考えてございまして、こういった意見聴取はもとよりでございますが、地元徳島に対する誇りの醸成であったりとか、魅力を発信できる人づくり、こういったことにもつながるといふふうに考えてございますので、今後とも引き続き取り組んで参りたいというふうに考えてございます。以上でございます。

(金部会長)

はい。新未来セッション NEO に関しては、これからも継続していただくというのが皆さまからのご意見だったと思います。それでは、続いて「『未知への挑戦』とくしま行動計画」令和4年度に向けた「改善見直し」(案)について、事務局から資料の説明をお願いします。

・事務局より資料により「『未知への挑戦』とくしま行動計画」令和4年度に向けた

「改善見直し」（案）について説明。

<意見交換>

（金部会長）

はい、ありがとうございます。それではご説明いただいた改善見直し案につきまして、これから様々な観点からご意見をいただきたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご発言いただけたらと思います。時間は11時50分を目処に、それまでに意見交換をお願いします。はい、近藤委員をお願いします。

（近藤明子委員）

すいません。ご説明ありがとうございます。1点質問と2点ちょっとコメントを述べさせていただきますと思います。まず、1点目は、木のおもちゃ美術館、これ質問なんですけど、年間来館者数が10万人目指しますっていうことなんですけど、これのサイズ感と規模感みたいなのはどんなのか、他の施設の来館者数とか、他の県、他の地域でもこの木育の拠点施設と比較してどうなのかというところ、ちょっとお教えいただけたらと思います。先日、ここの木のおもちゃ美術館に視察へ行かせていただいた時に、コロナ禍の状況の中でも本当にたくさんの利用者がいらして、本当に楽しそうにお子さんたち、遊んでいたのと、あとはそのお子さんを連れていらしてる方々もずっと笑顔で安心しているところが見受けられました。とても良い施設だなというふうに感じておりますので、是非その安心感がずっと続くような対策ということも加えて、積極的に利用していただくような魅力づくりというのもしていただきたいなというふうに思いました。このサイズ感、1点お教えいただきたいと思います。

ほかあと2点コメントなんですけど。DMVの観光コンテンツ、誘客プロモーションしていきましようということを書かれてるんですけど、これは交通そのものが観光の資源として捉えられるっていうところを目指されていると思います。先ほどフェネリー先生もおっしゃった通り、そこまでの交通の利便性というのが良くないというところで、そこに行くまでも、魅力的なストーリーを作るとかっていうふうな施策をされるとか、私ちょっと今、県の観光、徳島県観光なんかかっていう（アカデミーという）勉強会を受講させていただいてるんですけど、昨日リモートで開催されてて、その講師の先生もおっしゃってましたけど、やっぱりこう、SNSを使うにあたってはTwitterを使うとか、Facebookとかインスタとかってそれぞれの役目があって、どういう情報をどれで伝えるべきか、みたいなのところがあるので、そういうことも昨日確認させてたんですけど、そういうふうにDMVの事を伝えるって言う事に関する情報の発信の方法っていうのもしっかりとさせていただけたらというふうに思います。この公共交通の見せ方とか、そこへの導線の引き方とか、接続とかという意味のところもしっかり取り組んでいただけたらと思います。

最後にもう1点が、DXをしっかりと進めていきますということなんですけれども、これも本当に何度も確認のためにコメントさせていただきたいんですけど、やっぱりこの進めていく、どんどん走っていくスピードっていうのはかなり必要なんですけれども、それとともにそのセキュリティのところっていうのはしっかりと振り返りながら取り組んでいただきたいなというふうに思いました。以上3点でございます。よろしく願いいたします。

(農林水産部)

農林水産部です。徳島木のおもちゃ美術館についてご質問いただいております。まずは全国の同様のおもちゃ美術館、姉妹美術館、ございますけれども、その状況といたしましては本館となります東京おもちゃ美術館が、最近ではコロナで苦戦しておりますけれども、平成30年、令和元年度と13万人ベースで推移しております。また、次いで大きい秋田県鳥海山木のおもちゃ美術館でございますけれども、こちらは7万人規模で推移しております。今徳島県の方は設定10万人ということなんですけれども、10月24日にオープンいたしまして、11月末までで1万9千人と、2万人に迫る勢いで、大変好評いただいております。それで、あすたむらんどという土地の利もございますので、あそこも年間40万を超えて来場者があるということですので、決して10万人というのが高い目標ではないと考えております。また、お子様からご高齢の方にも大変好評でございますので、引き続き情報発信とともにですね、たくさんの方にご利用いただけるように情報発信、取り組んで参りたいと思っております。

(金部会長)

はい。

(県土整備部)

県土整備部でございます。先ほどDMVにつきましてのご意見、コメントいただきました。線路と道路の両方の走行が可能となります、DMVの導入につきましては、鉄道の維持、存続だけを目的とするものではなくて、車両自体が観光資源ということになりまして、県南部地域の観光振興はもとより、これを契機とした地域活性化など、様々な効果が期待できると考えております。現在、世界初の本格営業運行に向け、鋭意取り組んでいるところでございます。12月25日の運行開始を目指し、今現在、国の監査などの法手続きを進めておりまして、一般の方にもご乗車できるような準備を整えているところでございます。引き続き地域の皆様はじめ、全国の鉄道ファン、そういった皆様のご期待に応えられますように、新次元の公共交通モデルの実現に向けまして全力で取り組んで参りたいと考えております。以上でございます。

(金部会長)

セキュリティ関連の質問もあったと思うんですけども大丈夫でしょうか。

(近藤明子委員)

もうそれはすでに取り組まれながらしっかり進めていただいていると思いますので、確認のために申し上げました。ありがとうございます。

(金部会長)

そうですか、わかりました。はい、青木委員、お願いします。

(青木副部長)

青木でございます。よろしく申し上げます。私の方はですね、質問とコメントをお願いしたいと思います。まずは、2点だけ質問させていただきます。ほんとに資料はね、たくさん資料1から資料4までですね、本当に毎回思うんですけども県の方本当にこれ大変だろうなと思いつながら、改善シートから見直しまで資料の方ありがとうございます。ご質問でございますが、資料2のですね、数値目標の修正の観点で2点だけお伺いさせていただきます。まず1点目がですね、資料2-2の数値目標修正の阿波ふうどに関するハッシュタグの投稿件数の上方修正の観点と、それと同じ2項目の数値目標の修正にあります、防災士の登録の累計数のところに関して、お伺いをさせていただきます。

資料4の方なんですけれども、資料4の改善見直しシートにもございます、1ページですね。まず、阿波ふうどに関しまして、ハッシュタグの投稿件数は、一気に7000件に増やしていくというふうなこと、実は阿波ふうど、私もずっと、フォローをちゃんとしておりまして、毎回見ております。楽しく見させていただいてます。これをどのように活用して、もちろん目標で幅広く魅力を見せていくといったような観点だと思うんですけども、この7000件の根拠的なことを少し、事務局の方からお答えしていただきたいのがまず1点目。

2点目がですね、同じく資料4のですね、6ページにあります、先ほども上方修正のご説明いただきました、防災士の登録者数です。私も阿南防災士の会、副会長を務めさせていただいていると同時に、今日も朝9時半に震度4の地震がありました。これは県民観点からしても非常に関心の高い視点でございます。プロフェッショナルだけを作るのではなくて、防災士という役柄というのは、今後期待値が高いのと、やはり必然的にも多いであろうと、ただ3500から4800に増やすといったこの上方修正の視点ですね、正直申し上げると養成講座は確か、徳島大学環境防災研究センターのみが徳島県内では年2回ほど行っているだけだというふうな記憶があります。このキャパシティ等の問題等あるんじゃないかというふうに考えますので、4800の根拠をご説明よろしく願いいたします。

それと、コメントに関しましては先ほど、木のおもちゃ美術館、これ実は私おもちゃ学芸員2期生でございます、オープニング等もリーダーで参加させていただいてございます。是非とも皆さん木のおもちゃ美術館来てください。それと、DMVに関しましては、南部の方でも部会等を作らせていただいておりますねDMVはもう始めから、もちろん試乗もしてずっと推進をさせていただいておりますので、この辺はまた地域の盛り上がりというところも、高畑委員がおりますので、また海陽町の盛り上がりとか、そういったことも逆に聞きたいなというふうに個人的には思っております。コメントと意見でございます。お答えの方よろしく願いいたします。

(金部会長)

よろしく申し上げます。

(農林水産部)

農林水産部でございます。青木副部長様、阿波ふうどの登録と学芸員の登録ありがとうございます。まず、阿波ふうどのハッシュタグの件でございます。徳島の豊かな食とい

うことで阿波ふうどとしてですね、全国に発信しておりますけれども、この中で応援いただける個人とか店舗の皆様を阿波ふうどスペシャリストとしまして、認定する制度を平成28年に立ち上げております。これで徳島の食の魅力を県から発信しているという状況でございます。令和2年度で言いますと、積極的な情報発信していただこうと思ひまして、阿波ふうどスペシャリストの皆様を対象にですね、県産食材をテーマにしまして、投稿キャンペーン、これを実施いたしまして、阿波ふうどのSNSの活用、情報発信数がかなり増加しまして、令和2年度末では4,215件とかなりのを投稿いただきました。それでこの好評を引き続きですね、絶やさずというところで発信したいなということがございますので、令和3年度も引き続きですね、阿波ふうどスペシャリストの募集をするるとともに、テーマを決めて投稿キャンペーン、それからお店の方にはですね県産の豊かな食材を提供いたしまして、レシピの投稿とかもしていただけるように、更なる情報発信の強化に努めているところでございます。引き続き阿波ふうどスペシャリストの皆様にはですね、SNSを活用していただきまして、徳島の食の魅力を情報発信していただきまして、徳島県産食材の豊かな阿波ふうど、こちらの認知度向上に努めたいと考えております。さらには首都圏、海外へというところも視野に入れておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(青木副部長)

ありがとうございます。もう1点だけ、SNSのその発信してるのは、媒体としては、Instagramだけですか。それとも阿波ふうどってほかにもFacebookとかTwitterとかもあるのでしょうか。

(農林水産部)

はい。FacebookとTwitter、Instagramとございます。よろしくお願いいたします。

(青木副部長)

はい、わかりました。全てフォローさせていただきます。

(危機管理環境部)

危機管理環境部でございます。青木委員から、防災士の取得に関する数値目標の上方修正についてご質問いただいております。県におきましては平成17年度から、先ほど委員の方からもお話がございましたけれども、徳島大学の協力のもと、防災士の受験資格が得られます、地域防災推進員養成研修を実施しております。近年ですね、この県の方でやっております研修に加えまして、災害が激甚化、頻発化しているということもございまして、県外で研修を受けられる方、それから令和2年度からですね、小松島市、それから美馬市等におきまして、これは市の職員さん向けの研修ではございますけれども、防災士の資格試験の受験資格が得られる研修を最近では実施していただいております。こうしたことから、今後大幅に受講者数というのがですね、増加が見込まれるということもございまして、今回は上方修正をさせていただいたところでございます。県におきましては、徳島大学との共同でやっております、研修につきましては大学の行事ですとか、キャパの問題というのがございますけれども、今後とも、県民の方のニーズも踏まえまして、徳島大学さんと



も連携させていただきながら、しっかりと要請に応えていきたいというふうに考えております。以上でございます。

(青木副部長)

はい、ありがとうございます。行政の養成も含めてという観点でよろしいですかね。数字的には。

(危機管理環境部)

はい、そういうことでございます。

(青木副部長)

はい、わかりました。是非ともですね、小松島と美馬がされておると。1つお願いしたいのは県南部圏域ですね。僕の地元も阿南市もそうなんですけども、是非とも新しい新人職員さん等に対してですね、これは各市町村との観点になると思うんですけども。防災士是非とも養成はね、行政の方々にもとって欲しいなど。確か徳島県庁の県職員の皆さんはね、新人の方は全員取られてるというふうに認知しておりますので、そういった防災士を増やす、またリーダー的な方を育てるという観点で是非とも各市町村に対しても、是非ともお声がけをしてほしいなと思っております。はい。意見は以上でございます。

(金部会長)

はい、他にはよろしいでしょうか。防災士の受験資格について県で対応しているということですが、例えば、中学生、高校生にこの資格を取らせるために県としての支援等がございますでしょうか。

(危機管理環境部)

危機管理環境部でございます。ちょっとすみません、手元に資料はございませんけれども、教育委員会さんの方でもおそらく高校生等を対象にした研修をしているかと思っております。

(教育委員会)

教育委員会です。教育委員会といたしましては、高校生の防災士ということで養成をしております。平成27年度に108名から始まりまして、現在までで657名ということで養成しております。これにつきましては受講料と試験に、県費で負担をさせていただいております。以上でございます。

(金部会長)

はい、そうですね。全国では小学生も取った子がいると聞いたこともあるんですけども。地域の次世代防災リーダーを育成するという意味と若い人たちの意識を高めさせるという意味の教育的な側面でも支援してもらいたいし、もっと情報発信をして、こういったことができますとか、視野を広げるようなきっかけを与えることができたらいいなと思っております。はい、それでは他にどうでしょうか。高畑委員お願いします。

(高畑委員)

はい、ありがとうございます。今、青木委員からの話の中で DMV の話が出たので現地に  
いる人間としての所感を述べさせていただきます。やはり地域、当初はですね DMV 導入に  
あたっては地域交通であったり、地域の足になるんじゃないかっていうところであったり、  
観光じゃないっていう文脈が結構情報が錯綜していて、山の中まで入ってきてくれるのか  
なとか、色々なこういう意見が青木委員とは別のね、部会の中でもお話が出てたりしたん  
ですけれども、そこらへんの情報も修正されて地域には観光資源としての公共交通、こう  
なっていくというようなところで認知がこう広まっていったというのがある地域住民、  
一住民としての所感です。さらにですね、今発着場になってる海南文化村の方の整備もか  
なり進んできていて、その中でですね飲食店も軽食の飲食店も三幸館という場所をこの 4  
月からですね開店しまして、もともと 7 月からですね、開店し始めまして 7 月運行開始予  
定だったのでそこに間に合わせるような形で準備を進めてたんですけども、結果としてち  
よっと延期になるというところで、そのそこまでの 5 ヶ月間くらいは客足はないのかなと  
思ったんですが、逆にですね、観光客の方はほぼいないんですけども地域の方が食べに來  
てくださるような空間になっていまして、DMV が導入されたことによって、半田そうめん  
の専門店にしているんですけどもそこにですね、地域の方々が本当に、中学生小学生とか、  
小さい子からご高齢の方まで広くですね、ご利用いただけているような形というふうにお  
伺いしてまして、こういった形で地域住民にとっても良い空間が DMV の導入によって生ま  
れてきているというものが、運行開始前から見られているというのも 1 つ我々としても見  
られているところです。これから 12 月 25 日ですかね、本格運行開始によって、さらに  
いろんな人の足が入ってきてくれる中で、地域経済であったり、地域の盛り上がりにつな  
がっていくことでこの南部圏域、また東洋町も含めてですね、盛り上がりを実感していくよ  
うなフェーズに入っていくのかなと思います。以上です。

(金部会長)

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。色々意見をいただきたいんです  
けどどれも。はい、藤岡委員お願いします。

(藤岡委員)

はい、藤岡です。よろしくお願いいいたします。私の方からはあの質問という形ではない  
んですけども、見直されている項目のところについて私も関わらせていただいた事業が  
ありますので現状の報告と、あとは私も一保護者として小学生の母親でもあるんですけども、  
今の学童の現状と徳島の教育について保護者の方からご意見をちょっと賜わっている  
ことがありますので、それについてお伝えをさせていただいてもよろしいでしょうか。

(金部会長)

はい。

(藤岡委員)

まずですね、こちら資料4の5ページ目にあたります、徳島フューチャーアカデミーの件についてお話をさせていただきたいと思います。昨年度までですね、営業部女子課徳島支局の方で企画運営を担当しておりまして、3年間携わってきておりました。去年はですね、コロナの影響で初めてハイブリッド型の受講方法を取りました。サテライト会場を設けさせていただき、リアルで受けたい方はそちらへ、そして基本的にはオンラインでの参加という形を取らせていただいたんですね。そういったことをすることによって受講者数が本当に増えました。例年より倍ほどの参加者数が見込めた上に、後はやはり子育て中の方であつたりだとか、お仕事をされながらという方でもオンラインの方が参加しやすかつたというふうな声がありましたので、途中で辞退される方などもいらっしやなくてですね、今年は修了者数っていうところも増えました。そういった現状がありましたので、やはりこのハイブリッド型っていう受講方法っていうのは、今後他の事業などでもすごく有効的に活用できるんじゃないかなというふうに思っております。私たちがすごく大切にしていることはですね。やっぱり学んで知ってっていう、そこで終わるのではなくて、やっぱりそこで自分たちが体感したことを、どうやってこの徳島県を良くするためにであつたり、社会を良くしていくために行動できるかというところだと思うんですね。そういったところに関してもしっかり徳島フューチャーアカデミーのファーストの受講生は20代30代が中心なんですけれども、修了してからも起業されたりだとか新しい子育て支援のスペースを立ち上げられたりだとか。そしてコミュニティを作られたりだとかというところで、各方面で活躍されている若者っていうものが増えてきておりますし、議員さんとの意見交流会などを主体的に実施されたりだとか、あとは保育士さんのコミュニティを作られて、保育士の今の現状っていうところの問題点をピックアップした上で、どういうふうに改善に至っていけばいいのかというところ考えている人たちもたくさんいらっしやいます。なのでやはり学びの場というものを作っていくこともすごく大切だと思うんですけれども、受講者数みたいところで結果を捉えるだけではなくて、そういった方たちがどういったところで活躍していける場があるのかであつたり、実際に何をされているのかというところを追っていくことも大切なのではないかなというふうに考えております。はい。あとはですね、ちょっとこう保護者の方からの意見ということでこれを機にお話しさせていただいたらと思うんですけれども、コロナの現状がありまして保育園などでも大変だったかと思うんですけれども、結構学童保育の現場がすごく大変だったというふうな意見なども聞いております。徳島県の地域によってはですね、今学童保育もすごく満杯な状態になってきておりまして、もう1、2年生が優先的に預かるようになりますから、3年生ぐらいから退所させられるような状況があるんですね。そういった中で今年も去年もなんですけれども、3年生とか4年生の子達から留守番をしているような、一人で留守番をして、長時間一人で家にいるような子どもたちが本当に多かつたです。そして6年生のお兄ちゃんお姉ちゃんがいたりしたとしたら、低学年の子どもたちをそのお兄ちゃんお姉ちゃんが見てるような現状とかもあつたりするんですね。そういった中で何もなかったらそれに越したことはないですけれども、やっぱり今日のようにいきなり地震が起きることだつたあつたりしますし、なんかこう子どもたちがその安心していられるような場所っていうところがなんか少なくなつてしまつてる現状があるからこそ、なんかそういったところでちょっと不安を抱えながらもやっぱり仕事に行かないといけないっていうふうな保護者の方たち

がいるっていうことは、はい、現状としてあるかなというふうに思います。せっかくの夏休みの期間なので、色々な体験学習とかも行かせてあげたいなっていうふうな保護者の声もあるんですけども、そういった時に問題となるのがやはり送迎問題なんですね。子どもは行きたいって言うてるし、親も行かしたいと思っているけれども、交通手段っていうところでなかなか行かせることができない。で、結局コロナっていうふうな現状もあってお友達と遊ぶのも控える。で、結局一人で子どもは家にいないといけない。そういうふうな現状もコロナを通してちょっと浮き彫りになってきているのではないかなというふうに思います。

はい。で、あとは徳島の教育に関してっていうところでですね、私は新しく「とくしま共育 LAB.」という任意団体を立ち上げて今活動しているんですけども、そちらの方で10月ぐらいにですね、100人程度の保護者の方に緊急のアンケートを取らせていただきました。で、そういったなかで徳島の教育に対して十分だと感じているか、それともちょっと不十分、足りないというふうに感じているかという質問をさせてもらった時にですね、やはり約8割の保護者の方が不十分だというふうに感じているという現状が見て取れました。こういった中にはですね、地方と都市というところの教育格差であったり、あとは県内においても都市部、中心部とあとちょっと離れた地域の格差というところがすごく浮き彫りになっていて、学びの機会というのを得たいけれどもその地域によって得られないっていうふうな現状があるって言うところに、ちょっと不十分感を感じている保護者の方たちがいるというようなお話を伺いました。そして、教育に関してもですね、学校だけに教育を任せたいっていうふうに保護者の方も思っているわけではなくて、学校の先生以外からも学ぶような場が欲しいであったり、ただ単に教えてもらうような教育だけではなくて、子どもたちが実際に考えたり動いたり体験したりすることによって経験を積ませてあげたい、そういった生きる力っていうものを身につけさせてあげられるようなそういった教育を何か体験させてあげたいであったり、せっかく徳島県は自然とか文化っていうところがすごく充実しているからこそ、そういったものを子どもたちが十分に経験できるような、そういった機会をもっと増やして欲しい、そういった積極的なご意見がですね、もう40名程の方が長文でつらつらとたくさん書いてくださったものがありましたので、せっかくの機会ですのでこの場で共有をさせていただきました。以上になります。

(金部会長)

はい。ありがとうございます。コロナによって、子どもをめぐる環境が非常に厳しくなり、保育環境と学校環境、それから家庭環境で上手く機能していない部分、つながりが不十分なところで、非常に困っている人がたくさんいる。今そのような話だと思いますが、それをいかに行政で支援してもらえるか、道を探ってもらいたいことなんですが、どうでしょうか。

(教育委員会)

教育委員会です。教育委員会の方でも、先生だとか、子どもさんたちにアンケートを行ってございまして、コロナ禍において不安があると答えられている方は、多くいるということとは把握しているところでございます。子どもたちの一番近くにいる教員がやはり、子ど

もたちの生活において何か変わりがあったこととか、しっかりと気をつけて観察して、それで何か変化があれば寄り添っていくというようなことで、学校の方でもしっかり取り組んでいるところでございます。また、学びに関しましては、2学期からは本格的に1人1台端末というところで、学校の教育活動とか、課外授業だとか色々なところで使っているところです。コロナ禍においては学校の活動も限られているというところがございますけれども、色々な手段を使いまして子どもさん達ができるだけびのびと生活をしていけると、学校生活も送っていけるといようなところで取り組んでおりますので、よろしくお願いたします。

(金部会長)

はい、ありがとうございます。

(未来創生文化部)

よろしいでしょうか。未来創生文化部でございます。未来創生文化部の方では子どもに関する施策の方になっておるんですけれども、先ほど委員おっしゃいましたように、学童保育、いわゆる子どもさんの学校放課後の過ごし方、居場所作り、そういったものは非常に大事になってくると思っております。実は私も学童保育の役員を昔子どもがいてしていたことがあって、委員がおっしゃったまさに低学年優先にして、3年生4年生からはもうやめてください。もう部屋も足りません。先生もおりません。みたいな状況が当時ありまして。で、やはり待機児童、安心して働いているお母さんお父さん、ご家庭の方が預けられる場所っていう、そういうことを整理していくためにはやはり場所の確保と安心して預けられる人材の確保、そういったものが必要になってくると考えております。当部としましても、そういったその人材の確保としてのいわゆる子育ての支援員ですとか、そういった研修制度を設けまして、そういった場に広く職についていただいて確保していくっていうようなところであるとか、あとその整備。整備に向けても支援をしていくというようなこと取り組んでいるところでございます。で、学童保育以外にですと、いわゆる子どもの居場所づくりということで、子ども食堂であったりとか、あとユニバーサルカフェというのも推進しておりまして、そちらの方が、例えば障害をお持ちの方であるとかご高齢の方、子どもさん、そういった方、色んな多様性の方、皆さんが集まって1つの場所で交流をしていく。そういったことができる場所の拡大。そういったものにも取り組んで行きたいと考えているところでございます。

(板東企業局長)

ちょっとよろしいでしょうか。

(金部委員)

はいどうぞ。

(板東企業局長)

私、今、企業局長という立場なんですけれども、かつては県民環境部長を2年しまして、

未来創生文化部長を数ヶ月ということ、今の藤岡さんの一番最初の話があったフューチャーアカデミーですね、この立ち上げの時の担当部長してました。実際、本当にみなさん非常にディスカッションしていただいたり、ブレインストーミングして発表していただいたりとかっていうことで、自分の考えられていることをいかに社会で表現していくかみたいなブレインストーミングをしていただいたということを記憶しています。現場も見させていただきましたけれども、非常に熱心な方が多くて、本当にベビーカーを持ってきてですね、隣でこうやってベビーカーを動かしながら一生懸命参画してという姿が印象に残ります。おっしゃる通りでして、特にそこで得たものをもって次はステップアップしていただいて、政策決定の場に参画していただいたり、社会の方にどんどん出て行っていただくということが当初の狙いでしたので、今、先ほどのようなお話を聞くとですね、非常にいい事業だったんだと自画自賛みたいであれなんですけれども改めて思わせていただいたのがあります。それから参加した人数ってだけの定量的な評価ではなくって、やっぱりその次どういうふうにステップアップしていくとか、羽ばたいてもらっているというところに着目するって大事なので、非常にいいお話を聞かせていただきました。

(金部会長)

先ほど教育環境の話が出ましたのでついでに質問します。高齢者の人材育成ということで、働く場として保育助手制度を設け、今50施設ほどで働いていらっしゃるということなんです。そこで保育所側の保育助手に対する要望と、高齢者の方々の保育所で働きたいという意欲がマッチングしているのか。保育助手をするにはやっぱりある程度の教育も必要だと思うんですけども、それに対する制度面での対応と広報とかはどうなっているか、現状がちょっと知りたいです。

(未来創生文化部)

未来創生文化部でございます。会長の方から保育助手に関してのご質問を頂戴いたしました。保育助手の制度に関しましては、いわゆる保育現場の人材確保。保育士さんの負担を軽減する。そして元気な高齢の方、まだまだ現役で活躍したい、働きたいと思っていただける高齢の方、そういった方の働く場を供給しそこがうまくマッチすることで待機児童の解消であるとか、そういうことにも結びつけれるということで制度を作っておるところでございます。そのアクティブシニアということでの保育助手制度というのは、令和元年度に創設いたしました。この制度につきましては国の補助金を活用しまして人件費用がいる国、県、市の支援で負担をいたしまして、OJT経費、いわゆるその現場の方で研修をしていただく、そしてその仕事に就く前におきましてもいわゆる保育助手、保育士、育児支援ってようなことの研修を受けていただく機会、そういうのを設けて、現場に入ってくださいようにしております。今回ちょっと数値的には伸びてないというようなところはありますけれども、実際ここは施設の数ということで数値を出ささせていただいておきまして、現場といたしましては、例えばですね、今回の数値以外にでも、いわゆる制度を活用しなくとも高齢者の方を、例えば雇用した際に別の給付制度というようなものを設けておきまして、そういった形で高齢者の方がうまくそういった研修を受けたあと、各保育施設とかでいわゆる保育に子どもに直接関わらないお仕事としての保育の保育士さん

の負担軽減、そういうものをされている方であるとか、しっかり研修を受けていただいて、いわゆる一部保育の保育士さんが担う仕事っていうの一緒にやっていただくと。そういったいわゆる高齢者の方の意欲、したいというニーズですね。そういったことに合うような形で研修を受けていただいたり、研修を受けずとも、現場の方で実際お掃除であるとか、おもちゃのお掃除であるとかそういうふうなことを消毒作業とか、そういうふうなことをしていただくような形にしていけるような形で、それぞれの市町村、施設の方からニーズをお聞きしまして、そういった制度のご紹介、ご利用いただけるような形でご案内をしているところでございます。

(金部会長)

はい。高齢者の方は子育てに関して非常に豊富な経験を持っていらっしゃる人材なんですよね、保育の面での。だから高齢者が意欲を持って働く場が与えられ、保育現場では助けが得られるような、互いにWIN-WINするような状況であれば、将来的にもいいことですので、これは続けて活性化させていただきたいなと思います。それでは、植本委員お願いします。

(植本委員)

はい、株式会社ハレとケデザイン舎の植本と申します。よろしく願いいたします。私がこちらに来ている意味は、やはり西の話をしていければというふうに思ってやってきました。ちょうど今、教育の話であったというつながりもありまして、まずは教育の観点で申し上げますと、1つは実は大自然が売りである西については、教育移住みたいな動きが少しあります。教育移住という言葉があるかどうかははっきりわからないんですけども、大自然でのコロナ禍において家の中で狭苦しい思いをした方ほど、大自然でのびのび育てたいという意思が結構おありの方が増えてまして、お問い合わせもあり、来年辺りから小さなお子様を持つ家族ごと移住されて、こちらの大自然の中で育てたいという動きがありまして、それについてももし本当に県、徳島県という単位で何か一緒にできることがあればと、再三申し上げているような気もするんですけども、あればなど私たちのような小さなエリアだけで、こういうとっても大きなあの伸びしろみたいなものを持っているのはもったいないのではないかなってというのが1つあります。それに伴いましてやはり教育はただの大自然の中で遊んでいるだけではなくて、もう少し大きくなった先には小学校とか勉強についての課題がすごく大きくなっているのしかかっています。それについて、デジタル化と言っていますし、色んなオンラインという、色んな問題もあるんですけども、私はすごくそこに希望を感じてたんですけども、ちょっと田舎の方ですと本当に全く手が出ないのが現状です。もちろん1人1台端末っていうのはもう実施されてるんですけども持って帰ってきません。なので全く意味がないと言うか。コロナになりました。3日間くらい学校を休みにしなければなりませんってなった時も、持って帰ってこないのも何も出来ませんでした。ちょっとそういった歯痒さを感じたりとかしているのがもう1つの課題だと思っています。続いて、その教育格差みたいなものをちょっと感じているのは皆その何でしょう。その勉強の悩みみたいなものをお持ちの親御さんがほとんどだと思っていて、目の前に大自然があるにも関わらず遊んでる暇はない、勉強も追いついてないのに、みた

いな方がすごく多くて意外と大自然があるエリアほど全然外で遊んでないみたいな、で、肥満が多いというような現状もあったりして。その辺の課題というのは、私も一応三好市の教育委員をさせていただいてるんですけども、教育委員という立場だけでは何も提案も通ることもあまりなく、何か県の教育委員会の方々とも話せる機会があればなどふうに常々思っている次第です。教育については本当に来たい、そして中身が現状を見ると勉強の部分に不安があるみたいな、ちょっとその流れがどこか詰まってる箇所があるんだったら少し改善できたらなというふうに思っている流れです。

そしてもう1つ、教育については以上なんですけれども。

もう1つは観光について。これは観光地である西の祖谷ですとか、秘境って言われてるエリアに私は在籍しているんですけども。理由があれば来ます。正直それは私も実はサウナっていうキーワードをきっかけに結構全国から色んなお客様を迎え入れているような活動してるんですけども、公共の乗り物がないことによって結構断念される方もいらっしやったり、コロナ禍において観光の部分がしぼんでいるので尚更バスですとか、そういったのも途中までで辞めてしまったりとかってということが結構ありまして。何かその交通の便について何か周遊できる何かとか、そういった事っていうのはどこかに相談できないものかなっていうふうな声をよく聞きます。せっかく秘境ですとか、その教育移住に関してもつながりはあると思うんですけども、やっぱり足をみんなが持つてるわけではないとか、そういったことについて何かできることがあればというふうにたくさん声がありますので何かいただければと思っています。そしてなんだろう。観光について、観光で良かったということをきっかけに移住みたいなことにつながったりとかするということもありまして、ちょっと今さっきいいなと思ったのはユニバーサルカフェですとか、そういったのも西の方ではあまり聞かなかったりするので、何かみんなでそういった課題ですとか、そういったものも本当にここ2年ぐらいはそういった活動もあまり耳にしません。なのでちょっと一緒に考えていただけることがあればというふうに思って今日の西の課題をちょっといろいろ考えながらやってまいりました。よろしく願いいたします。

(金部会長)

はい。何かご回答ありましたら。

(教育委員会)

教育委員会でございます。貴重な意見ありがとうございました。まず、教育ということで田舎と格差があると、大自然で肥満もあるという色々意見もいただいてありがとうございました。現在、1人1台端末につきましては県で共同調達したものと、あと市町村で独自で調達したものというところで回線の調査を行ったりだとか、使うには授業でも、持ち帰りもですけども、まず教員、皆さん方のスキルをアップしていかなければいけないというところがございます。若い先生方ですぐに授業でも使えたり、休み中持って帰って宿題をしてもらったりっていうところで、できている方も、学校もあるというふうには聞いておりますけれども、今県の総合教育センターの方で、授業での活用、持ち帰りでの活用というところで県全体の先生方のスキルアップを図るというところで、順次研修も進めておりますし、学校訪問というところで、出前講座というところで研修も行ってあります。



保護者の皆様方には、まだまだというようなところの思いもあるかも知れませんが、今教育委員会の方でもしっかりと取り組んでおりますので、もう少しお待ちいただけたら、ご満足いただけるような状況になってくると思いますので、よろしくお願い致します。

(金部会長)

はい。観光に関する話がありましたけれども。

(商工労働観光部)

商工労働観光部でございます。やはり観光におきましては、2次交通というのは非常に重要な課題だというように認識をしております。商工労働観光部といたしましては、2次交通の取り組みについて、観光の方でおもてなしタクシーということで、タクシーの運転手さんの方におもてなしの心の研修等を実施させていただき、観光客の皆様を温かく迎えるような体制として、認定制度を創設しております。

数値は手元にはないんですけど徐々に認定数は増えておまして、観光が今、コロナ禍におきまして非常に大きな影響を受けておりますので、そこについては今は準備の段階、次のアフターコロナに向けて準備する段階と思っておりますので、商工労働観光部につきましても色々施策について考えていきたいと思っております。以上でございます。

(金部会長)

はい。よろしいでしょうか。

(植本委員)

おもてなしタクシーっていうのは、今もうすでに行っているところですか。

(商工労働観光部)

はい。そうです。今事業としてはしておまして、県内のタクシー事業者の方にご協力をいただきまして、タクシー運転手さんを認定するようになっており、それを県の方で認定させていただきまして、おもてなしタクシーについて周知・広報して、観光客の皆様にご利用いただいて、2次交通の活用にご協力いただいているところでございます。

(植本委員)

ありがとうございます。また後ほど会が終わった後でもいいので、なんかサイトでもあれば教えてください。ありがとうございました。

(金部会長)

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。今ちょっと話題が出たのでついでに質問したいんですけども、先ほど植本委員からも教育と観光をつなげた話があって、教育旅行という言葉が出ています。15ページに、県内の教育機会を含めた教育旅行の受入促進という文言があるんですけども、これについてちょっと具体的に、手短く

説明いただけますか。イメージが湧かなかったので。

(教育委員会)

教育委員会でございます。教育旅行と言いますのは県外からの修学旅行の受入などについて指しているかと思えます。色々新聞記事でも報道されておりますように、近県からも本県に修学旅行、来ていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

(金部会長)

そういった意味での教育旅行なんですね。県内の教育をPRするようなこととつながってのことではないんですね。その辺もあるかなと思ったんです。先ほど教育移住ということもありましたけど、県内にこのような素晴らしい教育機関があって教育を受けられるよとか、そういったことがPRできるようなものにつながることであればいいなと思ったんですけども。はい、わかりました。他にどうでしょうか。はい、高畑委員お願いします。

(高畑委員)

はい、高畑です。教育移住の話がでたので、今の県南の方での動きでいきますと、海部高校の魅力化プロジェクトをもう4期目に教育委員会さんの方で事業化していただきまして、4期目を迎えてコロナもあったんですけども、年々ですね、問い合わせ件数はもう伸びているという状況です。WITH コロナという形で教育委員会さんとも話をしてオンラインで説明会を実施する等ですね。やっていった結果、今年度の受験者数は多分過去最多になるであろうというような見込みになっています。それだけコロナによって全国の子どもたち、親御さんの感覚が変わっている。おそらく徳島の移住の進捗ってのも過去最多の進捗にこうなっているっていうようなニュースも出たと思うんですけども、そういった観点と、教育っていうところは強い移住の動機につながってるなというところ、子ども自身がもう自分の意思で、高校の場合は単身で移住してくると、というようなところの実績が毎年もう10以上出てきているので、1個でそれだけのインパクトがあるのでさらに全土にも拡大できるなというところなんです。西部のところで行きますと、おそらくデュアルスクール等、今コロナでちょっと実施ができない状況ではあったと思うんですが、その希望っていうのはあったりそういったところですね、活用というのが今は県全土っていうような単位でやってると思うんですけども、まあ今後のどこかのタイミングで市町村ごとにですね、それぞれの魅力であったり本当に教育移住に値する場所ですよっていうところが自律的にこうやっていくっていう形が望ましいのかなと思っています。ちなみにこのデュアルスクールについてはですね、我々の方でもこの4月に「未来の学校」という社団法人を立ち上げまして、デュアルスクールのプラットフォームとしての機能を作っていこうと思っています。これは徳島が生み出したこのデュアルスクールに対してですね、本当に県外からたくさんの方の問い合わせを受けまして、特にワーケーションだったリモートワークという大人のライフスタイルが変わったことによって、一気にですね、いわゆるその教育移住であったり選択肢が増えてきたと。今までは仕事が東京だからちょっと休みの時に行くというところか、0, 100でもういっそのこと行ってしまおうと転職して行ってしまおうというような形しかなかったんですけども、リモートワークができる事によって、じゃあ徳島の西部に

移住しながら東京の仕事をして、でも子どもは地元の教育を受けるというようなところに対してデュアルスクールのお試しであったり、定期的に行くっていう二拠点居住のスタイルに合わせるというところのニーズがものすごくマッチしてしまっていて、全国でいったら徳島のみがオフィシャルな形で実装できている一方で、学校への負担というものであったり、先ほど藤岡委員からあったようにじゃあ教育内容っていうところでいった時に格差があるんじゃないかみたいなところは実際にあると。僕自身ですね、このデジタル田園都市国家構想を通して狙っていくべきところとしてはもちろんハードとしてのタブレットの導入にしては予定よりも早まっても浸透してきてますと、いう中でそれをどう実装していくかってということがものすごく重要だと思ってます。先生方は元々そういったものに慣れてるとかプロフェッショナルであるわけではないので、ICT支援員だったりの制度はあるんですけどもこの制度自体がやはり場所によって相当格差があるなど。システムの部分なので本当に専門家じゃない限りどうして教えるのかわからないです。僕でもICT支援員は登録できるんですけど、全くわからないシステムの部分だったり、ハードの関連性があつたりするんでそもそもタッチできない、でそういう現状を見てると教員の方々もできればコロナ落ち着いたらもう使わない状態に戻りたいっていうふうになってしまうので、これを導入するっていうところは必須にしつつ、その先に先生たちの業務負担を軽減するところにつなげるであったり、子どもたちだけじゃなくてですね、利用することによって全体がハッピーになるって言うところを共有した上で必要な人であったり物っていうところを全体で支援していければと思っています。教育格差の所については結構イメージ先行しているかなと思っています。海部高校については何で全国でもたぶんトップ5に入るくらい高校の地域みらい留学という文脈で入学者数が伸びてるんですけども、一番大きな遠隔授業の対応であったり、オンデマンドの授業を無料で受けられますという制度があるからなんです。なので田舎に行きつつ、でも大学進学が目指せるのが海部高校の教育環境であるというところが全国との差別化になっているので、ここの部分でちゃんと導入をする、タブレットありますだけじゃなくてそこに対してのアプリケーションであったりサービスっていうのは、こういうのが徳島揃ってるから安心して来てくださいというようなところで、何なら都市部は全然まだ導入できてないですよっていうようなところも現状としてあるので、そういったところについて、しっかり伝えてもらう。あとはデュアルスクールのような仕組みであったり教育移住者が来ることによって初めて地元の人たちが、なんだこっつてすごいところなんだっていうところに初めて気づくので、隣の芝は青いじゃないけども都市の教育はすごいよねって言うけども、学校教育に関してそんな不平等では正直ないところなので、その部分をしっかり理解させるためにも色々なデジタル、DXした先の未来っていうところを皆さんで共有できればと思っています。ちなみに足元ですね私立の学校はすでに遠隔授業をやる、やれる体制が整っているんで年明けにですね僕らが予定しているのは東京の私立の小学校がですね、徳島県にサテライトオフィスを出していて、そこにですね、平日の期間中1週間ずっとこっちに滞在すると。その生徒たちは授業を遠隔で受けるんでこっちにいながら授業が受けられると。アフタースクールではこの地域っていうところを色々な体験をしながら過ごせるって言うところの仕組みを今作って実装していくので、この未来が要はこのDXであったりデジタル田園都市国家構想が進んだ先の子どもの未来ですっているようなところを1つこう示していくモデルにしていこうと思っています

ます。なのでこういった動きがですね私立が先行するのはしょうがないんですけども、公立の小中学校もですね、逆にある受け入れるだけじゃなくて徳島の子たちも外に出れるっていうようなところっていうのは非常に重要なことだと思ってますし、徳島が田舎だから嫌だと言って東京に憧れてますっていう子が東京なんて何もないよって言われても、いやいやあるでしょうとかそういう情報だけのやりとりではなくて、実際に行くっていうような機会、しかもそれが旅行、修学旅行とかではなく暮らしとして向こうにも1か月とか滞在できると。でも徳島の学校から配信授業があるから大丈夫ですと、そういうような今のデュアルスクールに固執するのではなくて色々な形がこれから描けて行くと思うので、そういったところの先駆性みたいなところを徳島が全国に先駆けてモデルになっていくっていうところが、結果としてこの街この県の地域のブランド化につながっていくのかなと思ってます。これは教育現場だけでってなるとすごく負担が大きいですし、スピード感に関しても無理やりできないところなんですけども、民間と連携してやっていく必要があるし、そこに対してのスピード感はすごく重要だと思ってます。子どもたちのうつ症状っていうの過去最悪の値ですし、自殺率、自殺件数ですね、もうコロナを経てと過去最高になっている。という所で行くとじゃあ5年後とか10年後にやっとなんかできるかもしれませんっていうような事態の問題ではないので、1分1秒を争うことであるというところを誰かに押し付けるんじゃないで、全員でですね、これを実現していくというところをこの会を通じてみなさんと共有できたらいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

(金部会長)

はい。ありがとうございます。徳島の教育環境を全般的にレベルアップさせながら徳島の教育環境を外に向けてこのようなすごい点がありますよと発信していく。こうした教育環境資源、つまり教育環境を徳島の資源の1つに捉えることがこれから大事なポイントになるかもしれませんね。

(教育委員会)

教育委員会でございます。高畑委員は「未来の学校」で大変お世話になりました。ありがとうございます。本県といたしましても教育委員会できっかりと発信していかなければならないと考えております。今頂きました新しい事例の紹介だとか、今後の方策だとか、またきっかりと皆様で共有とか、相談とかさせていただきまして考えていければと思います。よろしくお願いいたします。

(金部会長)

はい、時間がどんどん迫ってきてますけれども、まだご発言されていない委員の方にご発言をお願いします。真鍋委員、先にお願ひしていいですか。

(真鍋委員)

はい。すみません。初めて参加させていただきました。真鍋と申します。徳島の三好市の方で建設資材の販売の会社をさせていただいております。今回私参加させていただいて、皆様とちょっとスタンス違うかもしれないんですけども、色んな活動もちょっとしてい

るわけではないんですけれども、商工会議所の中で、色んな取り組み、すごく資料も読ませていただきながら、今日は色々聞かせていただきながら、勉強することばかりやなという事でこの取り組みについて西の方でも少しでも推進するように伝えていくことが、まず私の役目かなというふうに思っております。その中で今少しちょっと疑問に思ったことをちょっと質問させていただけたらと思います。もうすでに解決されていることであつたり、色んな取り組みをされているところもあるかもしれませんが、少し検討させていただけたらと思います。色々聞いている中で最近あつたことなんですけれども、地元の高校です、祖谷の方であつたり、そういうところから高校生が地元の高校に通うのに、また県外からも地元の高校に通うのに、生活する場所ですね。寮っていうのがすごく不足してまして、一般の民家をですね改装してそれを寮にしたりとかいうこともされてたりします。それをやる中で色々県の方で、市の方だと廃校を活用したりとか色々あると思うんですけども、県の色んな施設をですね、三好市の方でも今使われてないようなものもございいます。それを活用するような手だてをもう少し考えていただけたらなというのがあります。一度活用したいなということで問い合わせもさせていただいたんですけども、おそらく県内、県の方で基準があるんだと思うんですけども、すごくやっぱり今現状の田舎の方で借りる金額とはやっぱりかけ離れたものになって、やはり活用するには至らなかったということもございいますので、そのあたりも含めてまたご検討もいただきながら、色んな企業の推進、やる事の推進の後ろ盾もいただけたらなというふうに思っております。

もう1つがですね、私も聞いて防災士、資格是非取らなあかんというふうに思っている中で、特に西の方は観光と、それと防災の災害ということに対して、すごく色んな活動もされてるのも聞きますし、知つてもいます。その中で、やっぱり実際に観光に来られた方が、被災した時にどうするのかという取り組みについてっていうのを聞いているところ、それについてはまだまだこれからのあるのかなというふうに思っております。避難場所についてもインターネットで調べてもですね、それぞれの地域の自治会のある集会所っていうのがまず出てきますし、おそらくはホテルとか旅館に泊まられている方はそちらのほうに避難されると思うんですけども、車泊であつたり、日帰りの方の避難場所ということになると近くにそれがあればいいですけども、自治集会所とかに行くとやっぱり地元の方とそれとやっぱり観光で全然知らない方ということになりますので、そちらの方の取り組みというかですね、対応であつたりとかそういうことも今後必要にはなってくるのかなというふうには思いますので、そちらの方も、もし何か取り組み等あるようでしたら教えていただけたらなと思っております。以上です。

(金部会長)

はい、回答お願いします。

(経営戦略部)

経営戦略部でございます。まず、県の施設の有効活用ということでご意見いただきました。この行動計画の中でも、既存ストックの有効活用ということで、有効活用の件数を、数値目標として掲げておまして、今回も22年度までに42件のところ46件ということで上方修正しております。財政状況が厳しい中で、既存ストックを有効に活用していく

ということは非常に重要な視点であると考えております。経営戦略部の管財課の方で、未利用財産の有効活用リストを作成しておきまして、個々のご相談にも対応させていただいてるところでございます。実際にご相談もいただいてなかなか諸条件で叶わなかったというような話もございましたけれども、県といたしましては、先ほども申し上げましたけれども、今あるストックを有効に活用していくというところで、今後とも積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、何かございましたらまた随時ご相談いただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(金部会長)

それから避難に関して、はい。

(危機管理環境部)

危機管理環境部です。先ほど防災の観点でご質問いただいております。近年、災害が激甚化、頻発化しているということで、観光に来られる方への情報発信という部分は非常に大事になってくるかというふうに思っております。こうしたところですね、今年度、当部の方でとくしまゼロ作戦 LINE 公式アカウントというのを開設することにしておりまして、近年 LINE を活用される方が多いですので、こうした LINE を活用しまして、各市町村での避難所の開設状況とかっていうものを地元の方ですとか、観光で来られた方にも適切に、それから迅速に情報発信ができるように努めてまいりたいというふうに考えておりますので、こうしたところも積極的に広報してまいりたいと考えております。貴重なご意見どうもありがとうございました。

(金部会長)

はい。ありがとうございます。それでは、近森委員お願いします。

(近森委員)

徳島県青年国際交流機構の近森です。今回、令和4年度までの改善見直しということで次の行動計画を視点にいれたようなお話ができればなと思っております。ということで私の方からは2点お伺いというかささせていただきますんですが。

1つ目が資料4の18ページになります。414のこの高校生の留学というところで、数値の目標を変更されているというところなんですけれども、きっと色々とコロナ禍におきまして、実際の交流事業ができなくなっているという状況もあるかと思えます。私、「徳島グローバルキャンプ」、「徳島英語村」ができたときから関わらせていただいております。実際そのサマーキャンプされているところに行って高校生とお話したこともあります。すごく海外の留学生が実際に徳島に来て何日かを過ごすというプログラムで、内容的にはすごく良くて私も高校生だったら是非参加したかったなという内容のものでした。すごく良いプログラムでも、今ほんとうに第一線で活躍されている方もたくさんいらっしゃると思うんですけど、やはりこの運営上、数名の高校生の方にしか参加できないような内容になってまして、報告会なんかはほかの友達が見るような内容でした。なので個人的にはもっとこういう事業が広がって色んな方に機会が与えることができたらなという

のはずっと思ってたところなんですけれども、今回このような状況になってオンラインでのキャンプを実施したというふうにもちょっと確認はしたんですけれども、すごくオンラインになってくると垣根がこう、ハードルが下がるというか、参加しやすいと先ほど藤岡委員さんも言われてたんですけれども、ちょっと気軽に参加してみようかなということもあるかと思います。私もそうだったんですけれども、英語とか、多言語とか苦手なんでしょうけども、興味はあるっていう方もたくさんいらっしゃると思うんです。高校生さん。そういう方にも是非機会を与えていただければなと思いましたので、人数的にすごく増えているので県主催のオンライン留学プログラムと書いてますから、そういうところも含めてもらおうというふうなふうに思いました。

あともう1点なんですけれども。同じ資料の12ページになります。こちらに関しては、私すごく専門外でただ数字を見てちょっとこう気になったというところなんですけれども、二ホンジカの年間捕獲数を17年が14頭だったのを200頭にしますっていうことで、すごく生態系にも影響を及ぼしているということもあると思いますし、直接的な被害にあわれている方もたくさんいらっしゃると思います。こちらのタイトルを見たときに野生鳥獣との共生っていうふうに書いてたんですよ。実際のいろいろ計画をされているのを見ますと、その捕獲数であったりとか、狩猟とか、罠免許とか、結構こう捕獲するとか、あとジビエですよ。ジビエもすごくこう、定着はしてきているんですけど、すごくこう命を奪うというか、そういう施策がほとんど目に入ってしまって、なんかこう共生というふうにあるのであれば、もっとう、もちろん実際に数を減らしていくというのも1つ重要な施策だと思うんですけれども、他に対策がないのかなというふうに素人目線ですけど思いました。私のような聞きかじったような話だと、人とやはり、野生の住むところの境界線がすごく曖昧になってきていると聞いたことがあるので、そういう、もしかしたら別の施策でされているのかなと思ひまして、だからそういうのもきつこういうところに効果として出るのではないのかなと思ったので、だからそういうのも今年度のというよりは次年度の行動計画の中にも入れていただいて、是非その共生というところで考えていただければなというふうに思いました。以上です。

(金部会長)

手短にお願いいたします。

(教育委員会)

教育委員会でございます。今委員からおっしゃっていただきました。英語に興味のある方、少しハードルがオンラインで低くなっておりますので、しっかりと参加してもらえようというふうなご意見は大変重要なことだと思っております。今年度につきましては、1月8日にシンガポールの学生さんとオンラインで結びまして、実施をするというところでグローバルキャンプをさせていただきます。来年度に向けまして、多くの方が参加していただけるようにしっかりと考えてまいりたいと思っております。よろしく申し上げます。

(農林水産部)

農林水産部でございます。野生鳥獣の対策なんですけれども、現在ですね、野生鳥獣の対策につきましては防護と捕獲の、両輪でやっておりますけれども、現在、生息密度を調査しております、適正な面積あたりに何頭とか、そういう部分でですね適正な数を推定する管理計画を現在作成中でございます。今年度完成予定ですのでそのなかには狩猟者の数を増やすであったり、それから地区によっては保護の対象になったりというところが見えてくるものと考えておりますので、まずはその結果を待っていただけたらなと思います。大変貴重なご意見ありがとうございました。

(金部会長)

ありがとうございます。時間がもうないですけど、フェネリー委員お願いします。

(フェネリー委員)

すいません。せっかく来たので1つだけ感想言わせてください。まず、DMVの取り組みについて注目だぶんされてますので関心はあるんですけど、正直あんまり興味ないですっていう。私にとって乗り物乗って何かしたいっていうことであって、わざわざ乗りに行かんと思うし、そこまで行くんだったら車で行ってじゃあどこかで駐車して乗るっていうことになるのであれば、やはり徳島交通の便が悪すぎるんでその辺のことを全体的に見直さないと、これもあれも取り組みしてもあんまり上手くいかないんじゃないかなってうふうに思います。そもそも自動車、私は昔、那賀町に住んでおりましたので一番近い自動車まで車で1時間半とかバスで2時間半とかっていう状況だったので、もうちょっと整備していただきたいなっていうふうに思っています。もちろん経済的な色々な問題があるかとは思いますが、ちょっと徳島の交通便が悪すぎるっていうのと、オタクをポイントにしてる取組み色々ありまして、マチアソビとかコスプレとか、色々あると思うんですけどDMVもこういうマニアの人呼ぶのはいいんですけど、やっぱりローカルな人が普段足として使えるとか、または観光として使えるのであれば他の取り組みとリンクして、サーフィンだったり、野外活動だったりっていうふうに、リンクしないもったいないなっていうふうにといます。もし上手く隣の高知県とつなぐような足になるのであればまた他のところも、それこそ那賀町と土佐とつながってというようなことも視野にいれて取り組みしていただければと思います。

あと、防災士の話聞くとすごく連携がうまくいったらいいんだなっていうふうにごく感じておりますので、他の取組みももっと密に大学と連携すればいいんじゃないかなというふうに感じました。もしかしたら大量の書類の中にちょっと読めない連携がたくさんあるかと思うんですが、うちの大学だけでもDXやまたはSDGsまたはあわ学とか藍とかっていうテーマに研究グループもいらっしゃるわけですので、もっとこういうところの連携、大学、4大学もあるわけですし、またそれぞれの地域の団体とのもっと連携をとって取り組みをしていくと、同じような課題抱えて別々で働きかけているところもたくさんあるかと思うので、是非もっと密という言葉あまりよくないかもれないですけど、密に連携図ってほしいなっていうふうに思ってます。

自分は一応教育に絡んでいる人間としてですね、GIGAスクールの構想のことによって学校教育による現場がだいぶ変わっております。先生方一生懸命頑張っていると思うんで



すけど、支援が十分ではないというふうに強く感じております。私も県内外の教員研修に絡んでおりますので、正直県外行った方、行った時の方の先生方のITリテラシーというか、慣れが全然違います。徳島は残念だけどちょっと遅れております。三好とかそっちの方はもう昔からいろんな指定受けてて、非常に使い慣れた方がいらっしゃるのでもっとこう発信していけばいいのかなって。学校現場の先生、または教育委員会を責めるつもりは全くありませんが、忙しい中でみなさん新しいものに慣れていくのは大変ですが、もうちょっと支援をきちんとしてあげないといけないというふうには強く感じております。また、教員養成に絡んでる人間としてですね、学校に教員が足りないっていういっぱい電話かかってくるんですよ。校長からちょっと臨時探してるんですけどいい人いませんかって。田舎の学校には臨時の先生で埋まっているというなんかね、現状はどうかというふうにね。先ほどのデュアルスクールの話ではないんですけど、是非うちの学校に来てくださいって言ったら、うちの学校の8割は臨時ですけどっていう、うりにはならないですよ。だからその辺はやっぱ、お金をかけていいものをつくっていかないといけないというふうには思います。言うのは簡単ですけど実現するのはなかなか難しいとは思いますが。

実はPTA会長もやらせていただいておりますので、保護者の意見を言ってというふうに色々言われるので、私の意見ではないんですけど、保護者の意見を言わせていただきます。徳島はプールとかは足りません。夏に何で外のプールを閉めるのに、中で阿波踊りができるのか分かりません、というふうに意見がありました。インフルエンザの予防接種費用は子どもが高いのに、高齢者が安いのはおかしいんじゃないかっていうのはよく言われてます。あとは通級教室とか特別支援に対する体制は十分ではないっていう意見はいただいております。地域によってそういう放課後に帰れるような施設はありませんので、遠いところに行かなくちゃいけないとか、支援がいただけないという話を聞いております。

徳島はすごく魅力がたくさんある、私も移住者の1人として思ってます。自然もすごくきれいだし、人も素敵な人間、素敵な文化たくさんあるんですけど、PRがすごい下手ですので、是非、もっと上手にPRしていただきたいなというふうに思っております。

(金部会長)

はい。色々ご提言ご意見をいただきましたけれども、何か、教育の方で回答有りますか。手短にお願いいたします。

(教育委員会)

教育委員会でございます。GIGAスクール構想の今後、徳島での活用につきましては、また十分に支援とか、教員への研修なども図っていきたくと考えております。あと学校現場での教員が足りないというお声が大学の方にもあったというところで、定数の関係がございまして、今児童生徒数減っているところがございます。そこでもって定数ですべて正規教員を待遇してしまうと、いずれ減っていくというようなところでの調整だとかございまして、色々支援をお願いしているところがございます。保護者の皆様からいただいたご意見につきましても十分に情報共有もしたいと考えております。よろしくお願いいたします。

(金部会長)

はい、ありがとうございます。時間を少しオーバーしてしまいましたが、これで意見は全て収集できたかと思しますので、意見交換を終了させていただきたいと思います。

今回、「総合計画の改善見直し」について、委員の皆様から多くのご意見をいただきましたが、本日のご意見をもとに修正すべき点は修正し、「『未知への挑戦』推進部会」として、案の決定をしたいと思います。修正内容の確認につきましては、私にご一任いただけますでしょうか。

(部会長一任)

(金部会長)

はい。ありがとうございます。

それでは、本日、皆様から頂いた貴重なご意見を踏まえ、事務局と調整のうえ、当部会として改善見直し案を決定し、来年2月に開催を予定しております。総合計画審議会において山中会長に報告させていただきます。

なお、本日の会議の内容について、後でも結構ですので疑義等がございましたら、事務局の総合政策課まで御連絡いただけたらと思います。

本日、委員の皆様には、お忙しい中ご足労いただき、ありがとうございました。最後に事務局から何か連絡事項等ございますか。

(事務局説明)

- ・本日の会議録の公表について、事務局で取りまとめた上、御発言頂いた各委員に確認頂いてから、発言者名も入れて公開したい。
- ・当部会で決定した総合計画の改善見直し案について、令和4年2月に開催を予定している総合計画審議会に報告し、御審議頂きたいと考えている。

(金部会長)

はい。以上事務局からの説明がありましたけれども、本日の会議録の取り扱いについては、事務局の説明通りにさせていただいてよろしいでしょうか。それでは、そのようにさせていただきたいと思います。これで本日の部会を終わります。それでは進行を事務局に返したいと思います。

(事務局)

委員の皆様、本日はありがとうございました。閉会にあたりまして、板東局長よりご挨拶申し上げます。

(板東企業局長)

どうも長時間にわたりまして、ありがとうございました。非常に活性化してる会議で、驚いたところですけども、総じて金部会長を始め、委員の皆様、ありがとうございます。色々お伺いしておりますと、一つは未来志向で取り組んで来た県の施策、サテライトオフ

イス、シェアスクール、デジタルでいいますとローカル5Gの導入とか、あと1日から運行してますけど、グリーンの世界でいうとカーボンニュートラルを視野に入れた水素エネルギーの導入、とにかく先を見据えて様々な施策に取り組んで来て、少しずつ着実に成果となっているのかなと思っているところです。本日もそういった意味でいいますと、未来志向の様々なご提言をいただいたのではないかなと思っていますので、しっかりと計画の中にも反映させて、さらにステップアップして徳島県がよくなり、魅力を発信し、全国から多くの人に来て頂ける、ずっと住みたいと思ってる徳島県になるよう努めて参りたいと思います。本日はどうもありがとうございます。

(事務局)

それでは以上を持ちまして、本日の会議の方を閉会させていただきます。皆様大変お忙しいところのご参加いただきまして、重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。